

## <令和7年2月定例記者会見>

### 1 開催日時

令和7年2月10日（月）午前10時30分～午前11時10分

### 2 場所

滝沢市役所 庁議室

### 3 来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、岩手日報社、読売新聞社、朝日新聞社

### 4 発表事項

#### (1) たきざわ×わかもの交流事業の開催について（若者活躍推進室）

滝沢市では、2月23日（日）に「たきざわ×わかもの TALK CAFÉ 2025 in 東京」を開催します。

このイベントは、昨年に引き続き2度目の開催となりますが、本市の取組に係る情報提供を行うとともに、首都圏に在住する方を中心とした若者の想いを聞く機会とし、「双方向の情報発信」、「若者活躍のためのプラットフォームづくり」につなげることを目的として開催するものとなります。

本市の出身者、盛岡大学や岩手県立大学の卒業生、本市の関連企業の方など、滝沢市にゆかりのある方を対象としております。

このイベントを通して、市と若者のネットワークを作るとともに、将来の移住定住につながるような機会にしたいと考えております。

当日は、市の取組紹介のほか、「滝沢市にいた頃にやりたかったこと、これから滝沢市で（滝沢市と）やってみたいこと」といったテーマで参加者による5分ピッチを行う予定です。

#### (2) 滝沢ミライプロジェクト2024最終成果発表会の開催について（若者活躍推進室）

滝沢市では、3月8日（土）にビッグルーフ滝沢の大ホールにおいて、若者と地域をつなぐプレゼンイベント「滝沢ミライプロジェクト2024」の最終成果発表会を開催します。

このプロジェクトは、滝沢市に興味を持つ高校生や大学生に地域と関わる機会を提供することで、地域の方々とながかり、滝沢市に愛着をもち、自らの視点を取り入れて活躍する場を創出することを目的としたものとなります。

参加している高校生や大学生は、令和6年10月から活動を始め、「親子向け・子ども向けイベント」、「特産品PR・地産地消の推進」、「賑わい創出」、「地域資源の活用・保全」という4つのテーマのもと、6チームに分かれて、地域でのフィールドワークを行いました。

地域の方の話を聞いたり、体験したりといったフィールドワーク等の活動をふまえて、自分たちが考えた「滝沢市の未来に関する思い」を地域に届ける機会が最終成果発表会となります。

当日は、昨年の滝沢ミライプロジェクトに参加した学生が、昨年発表した思いを実現させるために実施した事業について報告する時間を設ける予定です。

(3) タウンミーティングの開催について（企画政策課）

本市ではこれまで、「市政懇談会」「市長と話そう」などの機会を通して市民の皆さまとの意見交換を実施してきましたが、初の試みとして、どなたでも気軽に参加できる、申し込み不要のタウンミーティングを開催します。

タウンミーティングは、市の取り組みなどを皆さんに積極的に公開・周知する場です。初開催である今回のテーマは、「市の令和7年度重点事業について」です。

この取り組みは、市民の皆さんの市政への関心を高め「やさしさに包まれた滝沢」の醸成を目指して、来年度以降もテーマを変え、継続して実施していく予定です。滝沢市の将来について一緒に語ってみませんか。ぜひご来場をお待ちしております。

5 市発表案件について記者からの当日質問

記者：交流事業、昨年参加者数は何人くらいでしたか。

若者活躍推進室長：30人くらいです。

記者：今年は今のところ申し込みの状況はどうですか。

若者活躍推進室長：まだ申し仕込み期間中というところではありますが、昨年並みにはと思っています。

記者：前回と違うところはどこですか。

若者活躍推進室長：前は市長と若者のトークイベントがメインでしたが、今回はピッチイベントで若者の思いを伝えて欲しいという部分でやり方を変えています。

記者：語ってもらった思いは何か活かすのですか。

若者活躍推進室長：例えば昨年の取り組みでは、若者から情報発信について提案をもらい、実現した事例もあります。それが開催の目的の一つでもあり、そういったフィードバックできる部分もあります。

記者：みらいプロジェクト発表会、各チームの発表があったあと、来年度の事業として取り組まれていく形は昨年と同様ですか。

若者活躍推進室長：そうです。

記者：表彰はこのチームが良かったというのに賞をあげるということですか。

若者活躍推進室長：審査員を何人か用意していて、昨年度同様、優秀なチームから表彰して、市の特産品などをプレゼントしています。

記者：タウンミーティング、今までと違うところは、申し込みが不要という部分ですか。

企画政策課長：違うのは市から積極的に市民の皆さんに事業を説明をすることです。これまでは申し込み制で、テーマも地域から上げてもらって、それについて意見交換をしていました。意見や要望が多く、市の取り組みをなかなか詳しく説明する時間を取れませんでした。市の取り組みについて発信していこうというねらいです。

記者：今回はふるさと交流館での開催ということですが、今後は南など別な場所での開催も想定していますか。

市長：実はふるさと交流館のあたりは、住民の数は多いですが、投票率はかなり低いです。それだけを見ているわけではないですが、少しでも市の取り組みや施策に興味を持ってもらえるきっかけになればという思いです。ですので、申し込み不要や自由参加にするなど、自由な形での開催として、いろんな方に参加いただくと良いなと思っています。

どうしても市政懇談会だと、要望があがってきてしまいますが、今回は重点事業について、こんな思いでやっている、こういった解決を目指しているなど、市政はどういったものなのかを説明できればと思っています。

記者：投票率の低さの要因は何ですか。

副市長：投票率が低いのは、様々要因が有ると思います。本来生活と市政は近いはずのものだと思いますが、滝沢の場合はこれまでの流入人口の状況などもあり、市政への興味感心を今一度向上させていく必要があると思っています。中部は新しい開発や区画整理などもありますので、新しい皆さんも比較的多く、市に関心を持ってもらい、自分も参画しようという意識を醸成していきたいと考えています。来年度も今年のプレの実施状況を見ながら市内で3ブロックでの開催なども検討していきます。今までは自治会の皆さんなどとお話しする場面が多かったですが、そうではない皆さんともフリーで市長と語り合える場面を作りたいと思っていますので、多くの皆さんに参加いただければと思います。

市長：令和7年度に重点事業について市民の皆様にしっかり説明しながら、市政の進め方について知ってもらいたいです。どういった年代の皆さんが来てくれるか楽しみにしていますが、子育て世代の皆さんなど、いろんな世代に参加してもらえることを期待しています。保育園や子ども会、育成会などにも声かけ、状況を見ながら、他でも開催できればと思っています。

若者室長：みらいプロジェクトについて補足ですが、元々学生の活動を支援するイベントですので、今年の提案は来年度市が実現していくのではなく、学生がやっていくのを市が支援して一緒にやっていく形になります。

記者：タウンミーティングのテーマである重点事業は、議会をまず通らなければという事ですが、議会で通らなければタウンミーティングで議論できないのか、そもそもタウンミーティング自体の開催が無くなるのかどちらですか。

市長：あくまでも時間軸で言うとそういう順番になりますという話でした。しっかりと議会を通しながら、来年度の事業について説明をしていきたいと思っています。

副市長：スケジュール的には2月17日に記者の皆さんに来年度の当初予算について説明させていただきます。その時点で、7年度の重点事業についても一緒に説明できればと考えています。2月21日に市議会の初日がありますので、予算案の提案をして、3月19日の3月会議の最終日で予算が審議されます。審議いただくのと並行してやっていく形にはなるが、タウンミーティングを開催し、市長から市としてはこういった考えでやっていくというのを、説明していくものです。

市長：市政を身近に感じてもらいたいという考えです。そのうえで、今後の地域づくりについてであったり、皆さんが普段思っていることを聞かせていただきたいと思います。かしこまらずに対話するというのが市長就任の時から姿勢でもあり、そういったところも意識しながら市民の皆さんと対話ができればと思っています。

記者：タウンミーティングの開催に伴って、市政懇談会や市長と話そうを廃止していくものではないですか。

市長：それらについても今後も続けてまいります。

記者：中部の投票率について、新規で住む方も多く流出入が多いことが要因とみていると

いうことですか。

副市長：歴史的に見ても、滝沢は村の時から全体的に他市町村より投票率は低いです。もともと純農村であった滝沢村から人口が急増した影響も背景にあるのかなと感じています。市長の公約にもありますが投票率を上げるということにも、この取り組みが繋がっていけばいいなと考えています。そういった側面もあるという話で、直接的に投票率を上げたいから中部を対象にタウンミーティングを開催するものではありません。

市長：一番は、皆さんが集まりやすい場所として選んでいますので、いろんな人が来てくれればと思っています。市政に興味を持っていただきたいという思いで説明をするものです。

記者：みらいプロジェクトは何人が参加していて、どういった大学の人か教えてください。

また、学生たちはどういったことを話しているのですか。

若者活躍推進室長：26人参加しています。今年は高校生の参加が多いです。半分以上は盛岡北高校の生徒で、それから県立大学、盛岡大学の学生が参加しています。

経済産業部長：発表の中身としては、特産品開発の話などもあって、グラノーラなど地域のものを使って作りたいという話もあり、地域の農家さんに協力いただきながらやっています。高校生が多いので、大学生だけの時とは雰囲気も変わっておもしろいと思います。

## 6 その他記者からの当日質問

記者：今予算の策定中かと思いますが、今年予算に込めた思いを市長からお聞かせください。

市長：予算を目にして物価上昇、人件費の上昇がすごいと感じています。建設・土木工事など様々な事業について物価・人件費上昇の影響を受けている状況です。一番は、これまでは財政構造改革の名のもとに滝沢市ではできていないことがたくさんありましたが、それらをしっかりと拾い上げて、予算として計上いたしました。福祉関係でも様々な事業を計上しました。将来を見越した投資、今だけでなく未来に向けて何をしていくかというところがポイントだと思っています。今までできていなかったこと、将来に向けてのことなどメリハリをつけながら予算を組みました。

記者：「武田色」は出せましたか。

市長：私としては、予算は私一人で組めるものではないので、職員、ひいては市民の皆さんと一緒に前に進んでいるつもりです。市長と話そうや市政懇談会だけでなく、商工会青年部や農村青年クラブなどの、若者との対話もしてきました。数多くの皆さんと関わって見えてきた課題について、職員と一緒に考えてきました。市民の皆さんと一緒に将来について語り合える、未来について考えていける予算になったと思っています。

記者：17日の予算発表は、何時からですか。

企画政策課長：11時からこの場で開催されます。

記者：滝沢市ではプール授業の改編や、市内中学校の制服の統一化について大きく動いていると思います。これらは第二次滝沢市総合計画にあり、それに則っているものですか。それとも、総計とは別に進めているものですか。

市長：一番は教育環境の充実、あるいはこれから最も必要だと思っているのはジェンダーなど、子どもの成長に応じて出てくることへの対応です。前回お話したとおり、プール授業の課題がある中で、注力するものの強弱が必要だと思っています。地球環境の変化や子どもたちの心・身体の変化に対応しながら、学校教育の充実を図っていきます。今回の取り組みに関しての反響もいくつかいただいていますので、大切にしながら、今後とも検討していきます。

副市長：基本的には今の市長の考え方があり、内容としては教育委員会で取り組んでいるので、総合計画に基づく検討や改革という位置づけではないです。

記者：市長の考えに加え、教育委員会の方針・計画に基づいた改革ということによろしいですか。

副市長：学校現場での教育課程に係る話です。一部報道では「プール授業を一切しない」との書かれ方もありましたが、中学校では「水泳の実技指導をしない」ものです。制服の統一についても、教育現場の中で、どういった在り方が生徒や親御さんなどにとって最適なのかというところを今検討し始めたものです。